



# # 空と語る CHAIR

## PROLOGUE

### 「空の見えるリビングを」

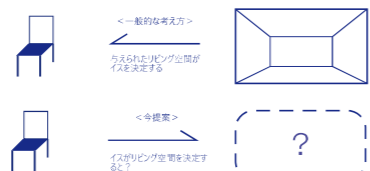
月への民間旅行、ドローン、空飛ぶクルマ、エアータクシー。鉄道や自動車が人の生活を支えた19~20世紀が「陸の時代」ならば、僕たちが生きる21世紀は「空の時代」になるのかもしれない。クライアントは、ドローン輸送の事業を共同で立ち上げた3人の若者たちです。彼らのシェアハウスのリビングに求められたのは唯一「空が見えること」でした。



<テーマカラー>  
夜空に浮かぶ無数の星のように、雲の粒の集まりという意味をもつ「群青色」をテーマカラーとします。

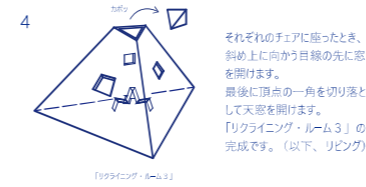
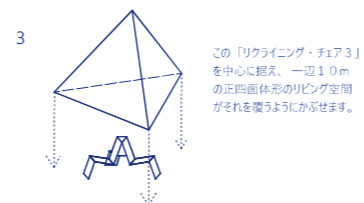
## CONCEPT

### 「イスからリビング空間へ」

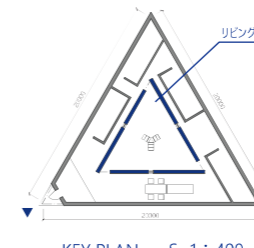


イスがインテリアエレメントとして考えられるとき、リビング空間はすでに与えられたものとしてあります。そして、その空間に合うイスがセレクトされます。今提案は、その逆に、まずイスがあるかたちをもち、そして、そのイスに合うリビング空間を考えよう、というものです。

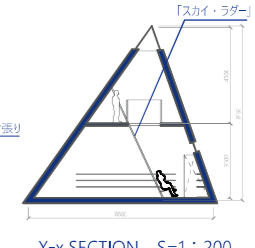
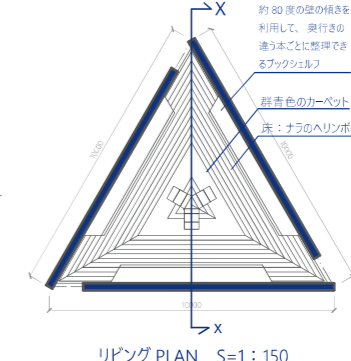
## DIAGRAM



## PLAN

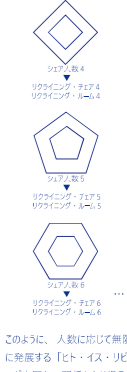


KEY PLAN S=1:400  
リビングを取り巻くように各部屋が配置されています。その結果、住戸全体の平面形態も一辺20mの正三角形となります。リビングへは3方向からアクセスできます。



X-x SECTION S=1:200  
ロフト部分は展示室です。ここへは「リクライニング・チェア3」と一体化したハシゴ「スカイ・ラダー」を登って頂きます。

## AND...



このように、人数に応じて無制限に発展する「イト・イス・リビング空間」の関係もあり得るのかもしれない。